

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

この夏は曇天の空模様が多かった。物価高による電気代金の節約で深夜には明かりを灯す施設も少なく星をを楽しむ絶好の機会だったのだが星をを楽しむ

機会が少なかった。

谷崎潤一郎の随筆『陰影礼賛』に日本家屋の暗がりの美を称えた文がある。暗がりの美を忘れ、白昼についている街灯や建物の照明は、照明の過剰、電灯の浪費だと来日したアインシュタインは不経

組みが何か、あるいはずだ。電力消費軽減に対する意識をもう一度考えるべきだろう。

触れるのもつらいものです。いつになつたら、人間は殺し合いをやめるのだろうか。おそらく、いつまで経ってもやめないと思いますね。今、世界で起きているおぞましい事件も、1800年代、1

合いの歴史、古代から続いてきたユダヤ人差別と迫害、第2次大戦後にイスラム世界のただなかに無理やり作り出されたイスラエルという奇怪な国家、紛争は永遠に続きそうです。中国の傲慢な態度

というのは、幻想だと考えます」と。

考えるべきだとの教えには感謝だ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

済だと苦言を呈したとの話は有名だが、資源の少ない日本の大きな課題を指摘したのだから。今後の電力消費量は、情報伝達設備の維持管理にとって大きな電力消費が予想される。原子力発電所増設を唱える場面が多くなったが、まずは身近な消費電力削減の取り

現在奈良にお住いの信州大学大学院・経済社会政策科学研究科修士課程で学んだ折の講師である下田平裕身さんから届いたメール。「八十を超えると、人間問うていうのは、いったい、いかなる生き物なんだろうかとつくづく考えてしまいますね。ロシアのウクライナ攻撃、イスラエルのパレスチナ大量殺人、中国の軍事的な誇張。毎日のニュースに

情報化社会では、自らの知識で考えるべきだ

だつて、清朝末期以来、つい最近まで、欧

900年代という200・300年単位の歴史の流れでたどり直してみると、過去の因縁が深く関わっていて、やはり起るべくして起きているという感じがしますね。ロシアとウクライナの複雑な絡み

米や日本がどれだけ中国を高圧的に押さえつけて来たかを、考えると、こつこつと傲慢さが増える態度に出るのも無理はないなという感じがあります。人間社会は、『いい方向に向かって進歩していく』



倒伏した稲穂の上を、格好のえさ場と動き回るカラスの知恵に驚かされる